

(1) 調査海域名	四国-九州沿岸海区 門川町沿岸
(2) 調査海域の所在	宮崎県 門川町地先
(3) 調査海域及び調査位置図	

【調査位置図】



(4) 調査位置の詳細 (WGS84)

詳細な位置情報は掲載しておりません。詳細な位置情報を希望される場合は、藻場調査ウェブサイトの「現地調査の結果」の「調査結果 (データ)」をご覧ください。

【水中動画連続撮影】

ライン番号	岸側基点		沖側基点		測線長 (m)
	緯度	経度	緯度	経度	
1	-	-	-	-	556
2	-	-	-	-	485
3	-	-	-	-	440
4	-	-	-	-	600
5	-	-	-	-	734
6	-	-	-	-	1,238
7	-	-	-	-	500
8	-	-	-	-	500
9	-	-	-	-	500
10	-	-	-	-	596
11	-	-	-	-	500
12	-	-	-	-	964
13	-	-	-	-	406
14	-	-	-	-	574
測線長 計					8.6km

【垂下式水中カメラ撮影】

スポット 番号	緯度		経度	
1	-	-	-	-
2	-	-	-	-
3	-	-	-	-
4	-	-	-	-
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
9	-	-	-	-
10	-	-	-	-
11	-	-	-	-
12	-	-	-	-

【 UAV 撮影（オーバーラップ撮影範囲）】

撮影範囲	緯度		経度	
A	-	-	-	-
B	-	-	-	-
C	-	-	-	-
D	-	-	-	-

(5) 調査年月日

令和2年12月1日、12月2日 (UAV撮影:11月30日)

(6) 調査実施者

株式会社パスコ 雑賀修一 (調査責任者)

(7) 調査海域の概要

本海域は、日向灘に面した門川湾の北部に位置している。第7回自然環境保全基礎調査では、庵川鍋崎では、クロメの優占する海中林、門川町乙島ではアマモ場が確認されている。太平洋側の分布南限に位置する大規模なクロメ群落や多年生アマモの大規模な群落は希少性が高い。

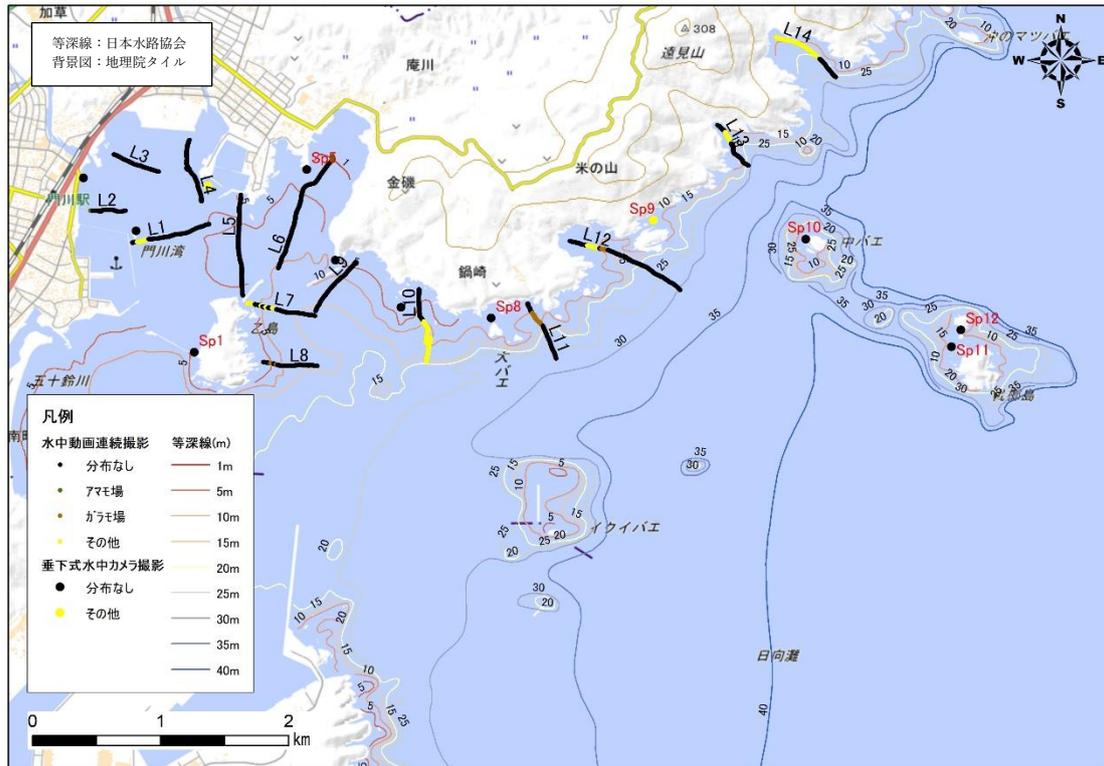
本海域を含む日向灘土々呂周辺は生物多様性の観点から重要度の高い海域(沿岸域)に指定されている。

現地調査は、鍋崎、乙島を含む門川湾北部の藻場を対象として実施した。

門川町沿岸での高度100mの年間平均風速は5m/s前後となっている(NeoWins(洋上風況マップ):NEDO)。

(8) 調査結果 ①水中動画連続撮影

【確認結果平面図】



測線 1：門川湾中央を横切る遠浅の調査測線、水深 D. L-0.9～-4.9m、底質は主に砂、岸寄りでは礫が混在していた。礫上で部分的に小型藻類が確認された。

測線 2：門川湾湾奥の遠浅の調査測線、水深 D. L-1.2～-3.3m、底質は砂であった。ごく岸よりの水深 D. L-1m 程度の箇所でアマモ類が疎生で分布していた。

測線 3：門川湾湾奥の遠浅の調査測線、水深 D. L-2.6～-4.6m、底質は砂であった。小型藻類を含めアマモ類、大型褐藻類の分布は確認されなかった。

測線 4：門川湾湾奥の調査測線、水深 D. L-0.7～-6.3m、底質は主に砂、一部礫が混在していた。小型藻類を含めアマモ類、大型褐藻類の分布は確認されなかった。

測線 5：庵川漁港から乙島にかけての調査測線、水深 D. L-1.2～-8.5m、底質は主に砂、岸より水深 D. L-5m 程度まで礫が混在していた。小型藻類を含めアマモ類、大型褐藻類の分布は確認されなかった。

測線 6：庵川漁港東側の入江の調査測線、水深 D. L-0.2～-10.3m、底質は主に砂、一部礫等が混在していた。入江奥の水深 D. L-1m 以浅において、アマモ類が密生で分布していた。

測線 7：乙島東側の調査測線、水深 D. L-2.6～-15.7m、底質は巨礫、礫、砂が混在するが、沖側の水深 D. L-14m 以深は砂となっていた。礫上等の一部に小型藻類が確認された。

測線 8：乙島東側の調査測線、水深 D. L-3.9～-19.4m、底質は主に岩盤、巨礫、礫が混在するが、沖側の水深 D. L-18m 以深は砂となっていた。岩盤上の一部にホンダワラ

類が痕跡程度から疎生で分布していた。

測線 9：門川湾東側の調査測線、水深 D. L-2.4～-15.3m、底質は岸側の水深 D. L-13m 程度までは、岩盤、巨礫、礫が混在し、それ以深は砂となっていた。ごく岸よりの水深 D. L-2m 程度では、サンゴが多数分布していた。小型藻類を含めアマモ類、大型褐藻類の分布は確認されなかった。

測線 10：遠見半島南側の調査測線、水深 D. L-2.3～-22.1m、底質は岩盤、巨礫、礫、砂が混在し、多様であった。ごく岸よりの水深 D. L-3m 程度までサンゴが分布し、水深 D. L-10m 以深において小型藻類が確認された。

測線 11：遠見半島南側の調査測線、水深 D. L-3.8～-29.3m、底質は岩盤、巨礫、礫が混在するが、水深 D. L-27m 以深は砂となっていた。水深 D. L-10m 以浅でサンゴが確認され、岩盤上にはホンダワラ類が痕跡程度～点生で分布していた。

測線 12：遠見半島南側の調査測線、水深 D. L-2.2～-29.1m、底質は岸よりの水深 D. L-17m 程度までは巨礫、礫、砂が混在し、それ以深は主に砂であった。岸よりの礫上にホンダワラ類が点生で分布しており、緑藻類の混生も確認された。

測線 13：遠見半島南側の調査測線、水深 D. L-3.3～-25.9m、底質は岩盤、巨礫、礫、砂が混在しており、多様であった。礫上等の一部に緑藻類が確認された。

測線 14：遠見半島南側の調査測線、水深 D. L-3.1～-28.7m、底質は岩盤、巨礫、礫、砂が混在しており、多様であった。水深 D. L-15m 程度まで、緑藻類などの小型藻類が確認された。



アマモ類 (測線 2)



ホンダワラ類 (測線 11)

(8) 調査結果 ②垂下式水中カメラ撮影

【垂下式水中カメラ撮影 調査結果一覧】

地点番号	水深 (D. Lm)	底質	主要な藻類 (種名・被度)	備考
Sp1	-2.2	砂・泥	-	
Sp2	-3.0	礫、砂・泥	-	
Sp3	-0.7	砂・泥	-	
Sp4	-2.4	岩盤	小型藻類10%	
Sp5	-3.0	砂・泥	-	
Sp6	-4.8	岩盤、岩塊・巨礫	-	
Sp7	-5.5	岩塊・巨礫、礫	-	
Sp8	-4.5	岩盤、岩塊・巨礫、礫	-	
Sp9	-6.7	岩盤、岩塊・巨礫、礫	小型藻類30%	
Sp10	-10.1	岩盤	-	
Sp11	-5.9	岩塊・巨礫、礫	-	
Sp12	-8.7	岩塊・巨礫、礫	-	



小型藻類 (地点 4)

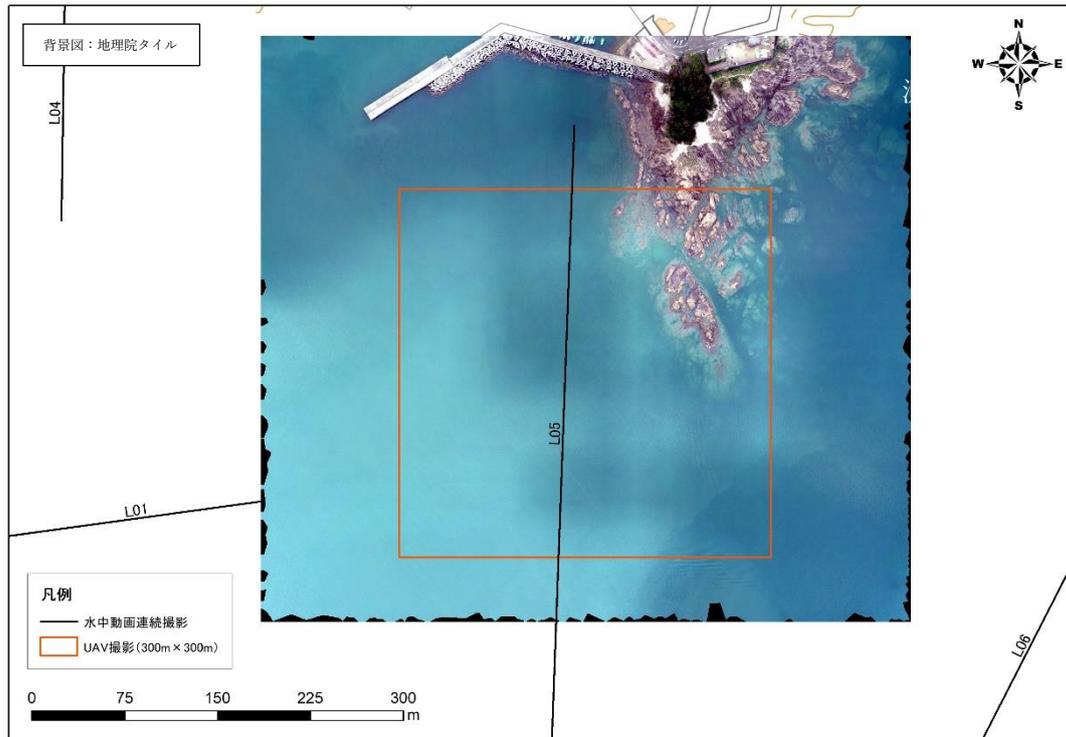


小型藻類 (地点 9)

(8) 調査結果 ③UAV 撮影

【UAV 撮影結果 簡易オルソ画像】

簡易オルソ画像からは、撮影範囲 (300×300m) 内に広がっている岩盤の形状は確認できるが、藻場の分布に関しては明確ではない。



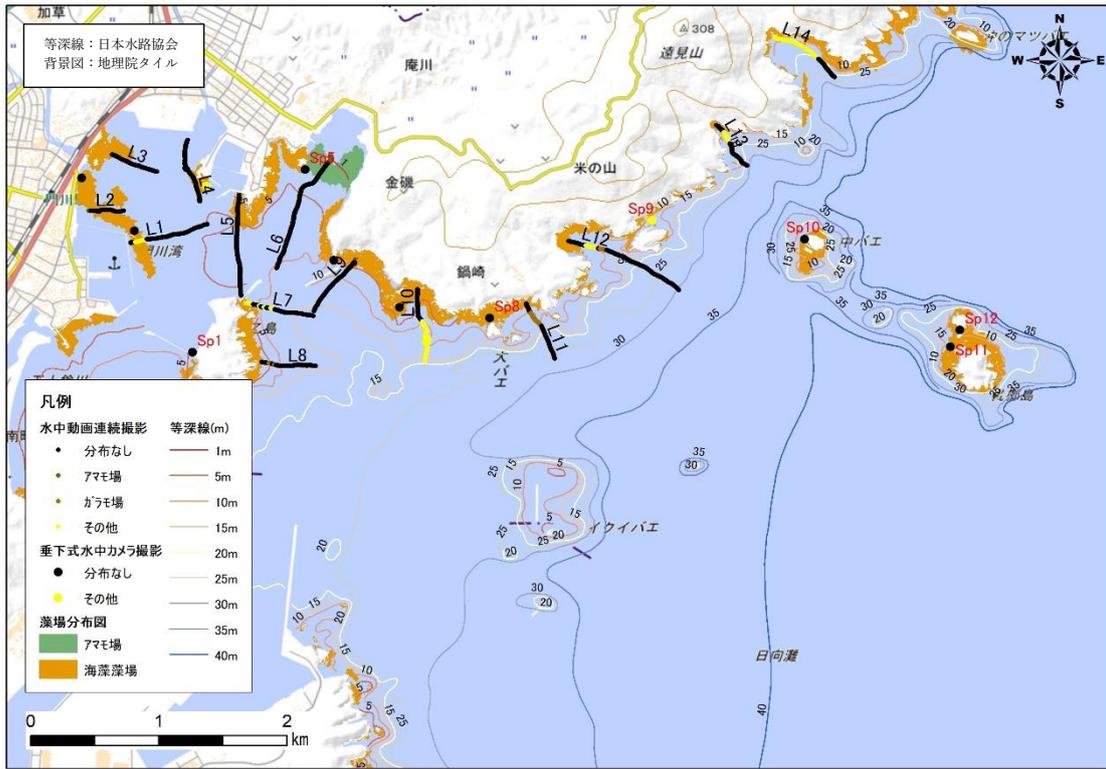
撮影時間	潮位※ ¹	風向・風速※ ²	波高	撮影高度	備考
2020/11/30 14:00～15:00	D. L 0.97m	北北東 0.7m/s	0.5m 以下	149m	

※¹ 潮位は、気象庁細島検潮所における 14 時時点の潮位表基準面上の値

※² 風向・風速は、気象庁日向観測所における 14 時時点の値

(9) 藻場分布調査結果図

【藻場分布調査結果図】



【藻場タイプ別出現水深頻度図】

